

令和2年度 芸術系教科等担当教員等 全国オンライン研修会 実施要項

1 目 的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とする。

2 主 催 文化庁

3 共 催 全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

4 開催期日 【第1回】 令和2年12月3日(木)
*受講希望者報告提出期限 令和2年11月4日(水)
【第2回】 令和3年2月22日(月)
*受講希望者報告提出期限 令和3年1月12日(火)

5 日程(予定)

	9:10	9:40	10:40	11:00	12:00	13:00	16:00	16:10	16:30
共通	オリエンテーション/開講式	全体研修	休憩・準備	理論研修 (教科・科目別)	昼食	テーマ別 実践研修 (教科・科目別)	休憩・準備	振り返り	

6 カリキュラム内容

- (1) 全体研修では、芸術系教科等の意義、役割、新学習指導要領の趣旨を踏まえた今後の学習指導における課題や可能性など、教科・科目別の理論研修では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や学習評価等についての講義を、文部科学省視学官及び文化庁教科調査官等が担当して行います。
- (2) テーマ別実践研修は、学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す授業を展開するための実践手法を中心とした研修プログラムとします。具体的には、「A表現」及び「B鑑賞」の授業実践と結び付いた実技研修、教材研究の方法、実践事例を通じた指導法の検討、指導に生きる学習評価の実際等とし、芸術系大学教員や広く活躍している芸術家等が担当として行います。

(3) 各分科会（理論研修及びテーマ別実践研修）は、次のとおり開催します。

分科会名	第1回（12月3日）		第2回（2月22日）	
	研修番号	予定定員	研修番号	予定定員
小学校音楽科	小音1	40名	小音3	40名
	小音2	40名	小音4	40名
小学校図画工作	小画1	20名	小画5	20名
	小画2	20名	小画6	20名
	小画3	20名	小画7	20名
	小画4	20名	小画8	20名
中学校音楽科 高等学校芸術科(音楽)	中高音1	40名	中高3	40名
	中高音2	40名	中高4	40名
中学校美術科 高等学校芸術科(美術)	中高美1	10名	中高美7	40名
	中高美2	10名	中高美8	20名
	中高美3	10名	中高美9	20名
	中高美4	10名	—	—
	中高美5	20名	—	—
	中高美6	20名	—	—
高等学校芸術科(工芸)	高工1	40名	高工2	40名
高等学校芸術科(書道)	高書1	40名	高書2	40名

7 研修方法

- インターネットを利用したオンラインの受講となります。
- 受講には、カメラ・マイク機能のあるPC（ノート型、タブレット型等）またはスマートフォンが必要です。
- 研修は、ZoomなどのWEB会議アプリを使用して行う予定です。
- 研修場所は、各受講者の状況に応じて設定してください。

8 受講者

(1) 受講資格

- 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者（非常勤講師等を含む）
- 都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等
- オンライン研修の受講に必要な機器、環境（受講場所等）を準備できる者
- 原則として、全ての研修プログラムを受講できる者

(2) 受講募集人数

- 各都道府県、指定都市から第1回、第2回それぞれ4~6名程度
 - ※ただし同一の分科会には2名を上限とします。(全分科会合計で6名程度まで)
 - ※私立学校、国公立大学付属学校はそれぞれ別途受け付けます。
 - ※各分科会の受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。

(3) 受講希望報告

- 各教育委員会等は「受講希望者の報告等について」に基づき、「受講希望者名簿」を作成し、
 - 第1回(12月3日開催)分については、令和2年11月4日(水)までに、
 - 第2回(2月22日開催)分については、令和3年1月12日(火)までに、文化庁参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室宛てに、電子メールで報告してください。

9 受講者の決定

- (1) 第1回(12月3日開催)分について、文化庁は受講者を決定し、11月20日(金)を目途に、各教育委員会等に対して、通知します。
- (2) 受講希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定・連絡します。

10 その他

- (1) 本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講してください。
- (2) 本研修終了時に、受講者アンケート等を行います。また、本研修会の受講後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがあります。

全国オンライン研修会の研修テーマ等について

【第1回】(令和2年12月3日開催分)

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師等	担当大学(予定定員)
小学校音楽科	小音1	学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える デジタルデバイスによる音楽づくり(基礎～)	福原之織: エリザベト音楽大学教授 壬生千恵子: エリザベト音楽大学教授 川上 統: エリザベト音楽大学講師	エリザベト音楽大学(40)
	小音2	音楽づくりの実践と授業研究を通して音楽づくりの新たな指導法、授業展開の視点や方法を探究する	石川則子: 日本女子大学非常勤講師 市川 恵: 早稲田大学教育・総合科学 学術院講師	東京藝術大学 (40)
小学校 図画工作科	小図1	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ーグラフィックデザインの思考を通して学ぶ創造的に発想や構想することとはー	石賀直之: 東京造形大学教授 小林貴史: 東京造形大学教授 山田 猛: 東京造形大学教授 海士智也: 東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図2	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ータブレットを活用したアニメーション製作を通して学ぶ創造的に表すこととはー	石賀直之: 東京造形大学教授 小林貴史: 東京造形大学教授 山田 猛: 東京造形大学教授 和田敏克: 東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図3	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ー持続可能な社会づくりの視点から学ぶ創造的に発想や構想することとはー	石賀直之: 東京造形大学教授 小林貴史: 東京造形大学教授 山田 猛: 東京造形大学教授 岩瀬大地: 東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図4	デザインから考える図画工作	寺井剛敏: 金沢美術工芸大学教授 ・進行 桑村佐和子: 金沢美術工芸大学教授	金沢美術工芸大学 (20)
中学校音楽科、 高等学校芸術科 (音楽)	中高音1	「我が国の伝統音楽」の鑑賞に関する教材や指導法、授業展開の視点と方法を探究する	藤原道山: 尺八演奏家 徳島文理大学客員教授	徳島文理大学、 東京藝術大学 (40)
	中高音2	創作の実践と授業研究を通して創作の授業の新たな視点や方法を探究する	アベタカヒロ: 作曲家 佐野 靖: 東京藝術大学音楽学部教授	東京藝術大学 (40)

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学（予定定員）
中学校美術科、 高等学校芸術科 (美術)	中高美 1	陰刻レリーフの研究： シーリングワックス印の制作を通して 授業への応用について	尾澤 勇：秋田公立美術大学 美術教育センター教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 2	彫刻素材研究： 滑石の彫刻 授業への応用について	皆川嘉博：秋田公立美術大学 アーツ&ルーツ専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 3	伝統工芸の漆器（菓子皿）製作体験を通し、作品制作 に対する発想や構想に関する資質・能力を醸成し、完 成後に使用することで、生活の中の美を感受する視点 を養う。	熊谷 晃：秋田公立美術大学 ものづくりデザイン専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 4	マテリアル・ラボ： つくり方をつくることを通した発想・構想の方法	柚木恵介：秋田公立美術大学 ものづくりデザイン専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 5	ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性	三澤一実：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授 春原史寛：武蔵野美術大学 芸術文化学科准教授	武蔵野美術大学 (20)
	中高美 6	意味を伝えるデザイン	白尾隆太郎：武蔵野美術大学 通信教育課程課程長・教授 大坪圭輔：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授	武蔵野美術大学 (20)
高等学校芸術科 (工芸)	高工 1	日本の伝統と文化『友禅染』 ～糸目糊を用いた技法を学ぶ～	上原利丸：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室教授 橋本圭也：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室准教授 渡邊五大：東京藝術大学 美術学部美術教育研究室准教授	東京藝術大学 (40)
高等学校芸術科 (書道)	高書 1	新しい教育課程と主体的・対話的で深い学びの実現に 向けた芸術科書道の授業	加藤泰弘：東京学芸大学 中里将大：福岡県立三井高等学校 八谷勝生：山口県立宇部西高等学校	東京学芸大学 (40)

【第2回】（令和3年2月22日開催分）

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
小学校音楽科	小音3	学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える デジタルデバイスによる音楽づくり（基礎～）	福原之織：エリザベト音楽大学教授 壬生千恵子：エリザベト音楽大学教授 川上 統：エリザベト音楽大学講師	エリザベト音楽大学 (40)
	小音4	音楽づくりの実践と授業研究を通して音楽づくりの新たな指導法、授業展開の視点や方法を探究する	石川則子：日本女子大学非常勤講師 市川 恵：早稲田大学教育・総合科学 学術院講師	東京藝術大学 (40)
小学校 図画工作科	小図5	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ーグラフィックデザインの思考を通して学ぶ創造的に発想や構想することとはー	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 海士智也：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図6	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ータブレットを活用したアニメーション製作を通して学ぶ創造的に表すこととはー	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 和田敏克：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図7	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ー持続可能な社会づくりの視点から学ぶ創造的に発想や構想することとはー	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 岩瀬大地：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図8	デザインから考える図画工作	寺井剛敏：金沢美術工芸大学教授 ・進行 桑村佐和子：金沢美術工芸大学教授	金沢美術工芸大学 (20)
中学校音楽科、 高等学校芸術科 (音楽)	中高音3	「我が国の伝統音楽」の鑑賞に関する教材や指導法、授業展開の視点と方法を探究する	藤原道山：尺八演奏家 徳島文理大学客員教授	徳島文理大学、 東京藝術大学 (40)
	中高音4 (第2回新規内容)	生徒の主体性を引き出す「創作」及び「鑑賞」の指導法について ー感性を働かせた深い学びを促す教師の「働きかけ」と「伝え方」ー	荻久保和明：東邦音楽大学 大学院特任教授	東邦音楽大学 (40)

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
中学校美術科、 高等学校芸術科 (美術)	中高美 7 (第 2 回新規内容)	美術科における授業改善—ユニバーサルデザインの視点からの指導方法の工夫	川上康則：東京都立矢口特別支援学校 主任教諭 鈴木淳子：女子美術大学教授 畑 順子：女子美術大学特別招聘教授	女子美術大学 (40)
	中高美 8 (第 2 回新規内容)	現代彫刻作品における鑑賞の可能性	三澤一実：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授 富井大裕：武蔵野美術大学 彫刻学科准教授	武蔵野美術大学 (20)
	中高美 9	意味を伝えるデザイン	白尾隆太郎：武蔵野美術大学 通信教育課程課程長・教授 大坪圭輔：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授	武蔵野美術大学 (20)
高等学校芸術科 (工芸)	高工 2	日本の伝統と文化『友禅染』 ～糸目糊を用いた技法を学ぶ～	上原利丸：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室教授 橋本圭也：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室准教授 渡邊五大：東京藝術大学 美術学部美術教育研究室准教授	東京藝術大学 (40)
高等学校芸術科 (書道)	高書 2 ※12/3実施の高書 1 と一部講師変更	新しい教育課程と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた芸術科書道の授業	和田圭壮：福岡教育大学 中里将大：福岡県立三井高等学校 八谷勝生：山口県立宇部西高等学校	福岡教育大学 (40)

※「中高音 4」、「中高美 7」、「中高美 8」は第 2 回（2 月 2 2 日実施）で新たに実施する研修です。

※他の研修は第 1 回（1 2 月 3 日実施）とほぼ同様の内容となります。